

# ANNUAL REPORT

# 2022 2023



かものはし  
プロジェクト

子どもの虐待や貧困  
「なんとかしたい」を  
大きな力に変えていく



# 「こんなこと 絶対にあっては ならない」

大学生だった村田が、  
子どもがだまされて売られてしまう問題に出会い、  
強くそう思いました。

本木・青木と出会い

2002年に立ち上げたかものはしプロジェクト。

「なんとかしたい」その一心で

カンボジアでの活動をスタート。

多くの方に共感していただき、仲間が増え、

大きな力へと変わってきた2010年代。

2012年、インドでの新しい挑戦。

2018年、カンボジア事業の独立。

2019年、日本でも活動を開始。

そして、2022年に新しい理念を決定。

これまでも、これからも、

「なんとかしたい」を

大きな力へ変えていくために。

私たちは皆さまと一緒に

新しい歴史をつくっていきます。



かものはし  
プロジェクト

インド事業

# INDIA

# 新行り

## 自分の中にある 光を取り戻す



清水 友美  
TOMOMI SHIMIZU

インド事業部ディレクター。2年間のインド駐在を経て、2013年7月からかものはし日本事務所勤務。大学院修士過程修了後、国際機関や人道支援機関で開発援助事業に携わる。

**私** はインドに人類の美しさを見る。日本にいと、インドはカオスの国で、たかられたり騙されたり、汚くて臭くて、路上に人が溢れ、女性が商品として扱われ、カースト制度が色濃く残っているイメージが強いかもしれない。それも現在のインドが持つ一側面であることには変わりがないけれども、この国には、愛と闘いと民主主義がある。そして私は訪れるたびに、それに強く心が動かされて、涙が出てくる。そこにある、人を想う心、なんとかしようとする多くの人たちに私は何度も救われてきた。2022年度はインド出張を3年ぶりに再開した年となった。これを書いている今も私は帰国前の飛行機の中だ。

Our Story-“Want to do something about it”

## 温かな想いと 構造的暴力の影響

今回の出張中、私はインド人同僚2人を連れて、チャッティスガル州の州都ライプールから北東に180km行った所で活動するSAANSのサバイバー<sup>※1</sup>リーダーたちを訪ねた。SAANSリーダーたちは、その8割がダリットという、カースト制度の中で不可触民と位置付けられたコミュニティ出身である。彼らは子どものころに、そして成人になってからも、労働搾取を目的とした人身売買の被害にあい、強制労働や家庭内暴力、先住民族差別など、多種多様な暴力に晒されてきた。私は彼らの事業モニタリングをこの1年担当してきた。最初はグループ内で何

が起きているのか、一人一人がどんな気持ちでリーダーシップの研鑽を行っているのか伝わってこなかったが、毎月ミーティングを重ね、だんだんオープンに話してくれるようになった。そして、内に秘めた美しい内省力、考える力、自分の全てをもってぶつかってくることを表現し始めた。私たち「ドナー」がいろんな制約の中で、遠路はるばる会いに来るということが、彼らに喜びをもたらす一方で大きな不安と憂鬱な気持ちを引き起こしたことを、私は今回の訪問で知った。こんな遠いところまで来てくれて、自分たちは訪問者をちゃんともてなすことができる

【※1】サバイバー=人身売買の被害を生き抜いた人



2023年4月の出張時、清水のセッションに聞き入るSAANSリーダーたち

だろうか。日本人であるTomomiは自分たちが作るご飯の何を食べられるのだろうか。こんなに暑いのに(43度)、自分たちの集会所には扇風機ひとつない。そんな環境下で、かものはしチームは不快な気分にならないだろうか。受け入れを担った人たちは、そんなことを考えていたら憂鬱になったと教えてくれた。もちろんレストランなんてないから、SAANSリーダーの奥さんたちが恐る恐るたくさん種類のご飯を用意してくださった。彼女たちの用意してくれたご飯はどこの料理よりも美味しく、私は表現しようのない想いでいっぱいになった。たくさんの愛情と想いを込めて作られているのを感じたから。

ダリットに生まれた彼らには、「ヒエラルキー」が染み付いている。自分たちはいつだって階層の「最下位」にいて、さまざまな社会生活の中で「抑圧」を経験してきた。自分の痛みは決して他者に見せてはいけない。だって他者はそこに薬ではなく塩を塗ってくるから、とSAANSリーダーは月次ミーティングで言った。それを聞いた時、私は涙が止まらなかった。なんという厳しい現実を彼らは生きてきたのだろうかと思ってしまったからだ。だからか、彼らはずっと「恐れて」いる。その恐れは現実の恐怖なのか、頭の中で繰り返

返されている得体のしれない恐怖なのかどちらかは分からないが、社会構造的暴力に何世代にもわたって晒されてきたひとつのインパクトだと、一緒に行ったインド人同僚は考察した。



©Siddhartha Hajra

西ベンガル州のBijoyniリーダーたちが振り返るこの1年

## かものはしの役割

かものはしが2018年から支援しているリーダーシップネクスト事業は、人身売買の被害を受けた人たちが、リーダーとして立ち上がり、社会を変えていくという仮説を考察する事業だ。もちろん考察するだけではなく、その方向に行くようさまざまな形で促すが、暴力を受け社会周縁化された人々のリーダーシップ育成がどう社会変革を引き起こすのか実証データは存在しない。だからこそ私たちは仮説を検証し、微修正を加えながらこの5年進んできた。性的搾取を目的とした人身売買の被害にあい、村に帰ってきたグループ。労働搾取を目的とした人身売買、児童労働の被害にあい、村に帰ってきたグループ。村には戻らず(戻れず)セックスワーカーとして生きている人たちから成り立つグループ。受けた暴力の形、出身村が置かれている社会

的政治的背景、被害者の中に残っている悲しい記憶のしまい方、痛みと願望の表現の仕方などの多様な文脈から彼らがどう立ち上がり、グループ化してコミュニティを形成し、他のコミュニティを巻き込んで社会を変えていくのかを見守る事業である。どのグループとのセッションでも、私は心の中でいつも叫び願っていることがある。どんなに苦しくても、悲しくても、私たちはあなたを想っている。頑張れ。あなたの中にこんなに美しいものがたくさんあることにどうか気づいて。そして伝え、生きろ、と。

そんな彼らの周りにはNGOの人たちがいる。社会企業の人たちがいる。みんな、なんとかしなきゃ!と全速力で走り回っている。かものはしはインドで、そんな人たちに支えられて事業支援を

行ってきた。なんとかしたい、なんとかしなきゃと走り回っている大勢の中で、かものはしは「鏡」と「錨」の役割をとる。その場にいる全員が走り回ると、船は暴走する。どこに向かって走っているつもりだったのか、それぞれの意図が微妙にすれ違い、思いもしない座礁に乗り上げるからだ。そして走っている姿は本人には見えない。意図せず「他者」が自分の目的達成のために手段化されることも起きやすい。だからこそ、そこに「錨」と「鏡」の役割が必要となる。船自体も変幻しながら目的地に向かって就航するために。私は、自分自身が鏡になりながら、錨になりながら、船の様子をじっと見守っている。時に警笛を鳴らす人の役割も取るけれど、主役はあくまでサバイバーリーダーたちと彼らに寄り添うNGO、社会企業のインド人たちである。

## 自分の内側に 広がっている「庭園」

そんな「鏡」の役割を取る私は、映し出すものの強烈な痛み、圧倒的な美しさに、常に心を奪われている。自分が人身売買の被害を受けたということを受け止められず(出稼ぎ先で運悪く劣悪な状況下で働かなければならなかったただ、というのは、労働搾取を目的とした人身売買被害者のほとんどが口にする語り口である)、自分の過去を文章化することにこの1年全力で抵抗したSAANSリーダーたち。自分の

記憶だけでは不確かだからと、さまざまな葛藤を乗り越えてようやく両親に話を聞き、自分もまた人身売買の被害を受けたのだと知ったときの彼らの絶望と覚悟。そうやって覚悟を決めても、思い描くリーダーシップの形の違からグループ内不和・不信・抗争が膨らんでいき、思うように活動が全く進まず、この1年で自分たちへの自信を喪失していった。そして彼らは一様に「NGOや外部講師に来てもらって問題解決して

もらう」と言う。他力本願は、自分が持つパワーへの不信から来ることが多い。

今回の出張では、自分の内側にどんな庭園が広がっているのかを絵に描いてもらうというワークを行った。私たちは、インド人であれ日本人であれ、ダリットの出自であれ上流階級の出自であれ、皆、自分の内側に「庭園」を持っている。庭園はワイルドに広がる森かもしれないし、手入れの

行き届いた小さな箱庭かもしれない。それはどちらかがより優れているというわけではなく、それぞれ固有の形で、それぞれ固有のもの(動植物、その他自然等)を有して存在している。そして、私たち一人一人は、自分の庭園の「庭師」である。その庭師は幸か不幸か、自分しかいない。その庭園を枯らすのも美しく蘇らせるのも、庭師である自分しかいない。私はずっと、誰かが私の庭の世話をしてくれている(はずだ)と思っていたから、庭師は自分しかいないと知ったとき、あまりの衝撃と悲しみでしばらく口がきけなかった。そんなことを共有し、彼らに自分の内側にある庭園の絵を描いてもらうと、ものすごく豊かな、多様な庭園が描かれていた。すると「自分たちは誰かが助けてくれないと問題解決できない」という思い込みがすーっと自然に場から消えていった。多くは、自分の庭園を恥ずかしそうに共有していたが、受けとめられた時、自分は大事にされている、ひとりではないというエネルギーが、なぜか、自然と場に立ち現れてきた。これは12月にVimukti※2を訪れた時も(違うワークをしていたのだが)起きた。そしてここが、彼らのリーダーシップの源泉になる。



かものはしチームとSAANSリーダーたち。一日ワークショップを終え、清々しい笑顔

自分はそのままで愛され、大事にされている。かものはしは私たちをひとりの人間として大事に愛してくれている。「鏡」である私は、鏡を覗き込んだ人が、自分の内側の美しさにはっと気づいて、それが連鎖して社会に次々とたくさんの方が咲き誇るといいなと願っている。社会変革という闘い

にこういう形があってもいいのではないか、と思うから。暴力を受け、傷ついて立ち上がってきた人たちの、新しい形の社会変革闘争とダンスをしながら、新しい社会の形を作っていく予兆を感じている。

※2 Vimukti...アンドラプラデシュ州で活動するサバイバーリーダーグループ

Think about it with you.

あなたと一緒に

考えたい!

私たち一人一人に本来備わっている力を、過大にでもなく過少なでもなく、大事にそつと信じ、それをみんなが自分のリーダーシップの成長に繋げていく。それは可能だと思いますか?その先にはどんな社会ができると思いますか?



SAANSリーダーたちと庭園ワークをする清水 ©Siddhartha Hajra

## 1

子どもが売られない社会の仕組みを作るプログラム

## TAFTEESH

[タフティーシュ]

事業開始から10年。進んだ現場支援と  
 まだまだ時間がかかりそうな構造改革



Taftesh会議に参加するNGO関係者とサバイバーリーダー

人身売買の被害にあった女性たちが権利・正義を取り戻せるよう、刑事司法制度や福祉制度の強化に取り組むタフティーシュ事業<sup>※1</sup>は、2013年の開始から10年が経ちました。2013年に10人の被害および捜査裁判状況を調査することで、インドの捜査・司法制度が人身売買の犯罪を抑止できない構造的問題を明らかにし、それに基づいて事業設計を行うところからスタートしました。開始当初は、年間事業予算約300万円で、一人の内部弁護士とSanjog<sup>※2</sup>とかものはしのみ小規模事業でしたが、2022年末までに年間約5,300万円の予算規模となり、4つのNGO、2つの弁護士グループ、国選弁護士34人が、246人のサバイバーを支援する事業に成長しました。この事業大幅拡大の背景には、イギリスのハミングバード財団や、スイスのオーク財団からのご支援とともに、当該事業を支えてくださったかものはしサポーター会員の皆さまのご支援があります。改めまして心から御礼を申し上げます。そしてかものはしは、2025年度に当該事業から資金援助を引き上げる計画に基づき、現在のインド系財団へ引継ぐための施策を行っています。

【※1】この事業は、①トラフィッカー（女性たちをだまして売春宿に売る者）が適切に捜査され、裁判で有罪判決が出されること、②人身売買の被害に対して適切な被害者補償を国から受け取ること、③人身売買の被害から適切に回復できるよう州・県の支援を獲得すること、④人身売買の犯罪を抑止できる法律や政策に関与すること、を主な柱として支援しています。

2022年度末までに、Tafteshで発現した結果は以下の通りです。

122人のサバイバーによる加害者逮捕・訴訟支援（有罪・無罪判決ともに年度内0件）

125人のサバイバーによる被害者補償申請（54人に認められ、うち30人補償金を銀行口座に受け取る。補償金額は10万ルピー～80万ルピー）

246人のサバイバーがリハビリテーション支援を受ける（政府取り組みへの橋渡し）

## 点から線、面へつなげていく

当該事業はパートナーNGOが、政策や法改正などを通じて構造レベルに介入することで、人身売買の犯罪が抑止され、子どもや女性たちが売られない社会を作ることを目指してきました。個別ケースでは状況改善が目立ちます。安定的に適切な金額（10万ルピーから80万ルピー<sup>※3</sup>）の被害者補償が認められるようになり、それは彼女たちの世帯貧困状況の大幅改善、人身売買再被害リスク低減、彼女たちの家庭内の地位向上（家庭内の重荷から資産へ）、子どもたちの教育資金確保などを通じて、将来の世代にわたって負のサイクルから脱することを可能にしています。また、加害者に対する捜査・裁判は、地元警察から人身売買取締警察に移管され捜査が適切に行われるようになりました。心や体を蝕まれて戻ってきた被害者が無料で精神科やその他の治療を受けられる地域も広がり、サバイバーリーダーたちが自分たちで地元政府へ働きかけを行って状況改善を求めるといことも常態化しています。

一方、残念ながら構造レベルにおいては未達が多く見られます。2019年5月の頓挫以降、4年以上膠着状況に陥っている包括法案、2017年に行った公益訴訟3件も大きな進展はなく、シェルターの廃止とコミュニティ主導リハビリテーション政策についても州・国家レベルの提言までは届いていません。ひとつの理由は私たち自身にあります。NGOとして得意な「点」の改善に満足し、どんなに頑張っても成果が出ない「線」や「面」的

改善にエネルギーや戦略マインドを維持できないことにあります。もうひとつは、インドの構造問題に着手するには本当に長い時間が必要で、コロナで3年間失われたことを考慮すると、もう少し長い目でとらえる必要があるのかもしれない。2023年度は線的・面的事業成果を加速させるためにモニタリング視点を変えて、2025年度末までの事業成果発現を狙っていきます。

【※2】Sanjog=かものはしのパートナー団体

【※3】日本円で16万円～130万円

Support to



Co-financed by

OAK  
FOUNDATION

期間 ①2019年9月～2023年2月  
 ②2023年3月～2024年2月

事業費 ①1,454,111ドル（1億9,417万円）  
 ②40,358,215ルピー（6,619万円）  
 ※Oak財団との契約金額の通貨がドルのため、  
 ①はドル表記としております

2022年度  
 支出実績 ①4,042万円  
 ②1,564万円

## 2

サバイバーのリーダーシップ成長支援

## LEADERSHIP NEXT

[リーダーシップネクスト]

リジェネラティブリーダーシップ  
共創・再生の先に「変えていく」力を見る

初選挙後役員に選出されたILFATリーダーたち、結束を強める

2018年に開始したリーダーシップネクスト事業は、人身売買の被害を生き抜いてきた人たちが、被害者からサバイバーへ、サバイバーからリーダーへ成長し、社会を変化させていくことを支援する事業です。かものはしは多様なリーダーシップのあり方がどのように社会運動化し、社会インパクトを出すのか、継続してモニタリングを行っています。

### サバイバーリーダーたちの グループとしての著しい成長。 NGO依存型から自立・自己主張型へ

現在サバイバーリーダーグループとNGOが26の多様なサブプロジェクトを実施していますが、そこには共通するパターンがあります。これまでNGOが決めた計画を実行する一端を担っていただけのリーダーたちは、この事業が自分たちの事業だと知って嬉々として活動を始めます。自分のような被害者を出さないために、自分たちで計画を立て、人身売買についての啓発活動やDV被害者支援、児童婚予防活動など、一様に彼らのおかれた文脈に沿ったコミュニティ

活動を始めます。そのうちに、グループ内で活発に活動する人、ミーティングに来ない人、結婚後に義理の両親に止められて来られなくなった人など参加にバラツキが出てきて揉めます。そのような中でも、結束と不和を増幅させながら、自分たちのリーダーシップスキルと資質を相互評価し、NGOとの関係性を変化させながら、自分たちの「声」をさまざまな活動を通じて表現しています。

### 自己喪失の先にある、 自己役割の再定義と変化

一方、これまで彼らに「代わって」声をあげてきたNGOは、目を見張る勢いで成長し、自己主張を始めるリーダーたちを前に、「何をしたらいいの？」と自己喪失になるのも定石です。「もう私は不要ね」とへそを曲げる人、NGOとサバイバーを親子関係に例え、「子どもの将来に親が口を出すのは当然だろう」とこれまでの役割を引き続き行おうとして「支援が必要な時には言うのでそれまでは口を出さないでください」とリーダーに言われ腹を立てる人。リーダーの成長とともに自分たちもまた新しい役割に挑戦しようと意気込む人。26あるサブプロジェクトのうち、1つのグループと1つのNGOが「受け取る人と与える人」の関係性から「ともに学び合う相手」に変化しようとしています。

また2022年度にイギリスのBritish Asian Trustが当該事業に共同出資することが決まり、

2023年度よりビハール州、ラジャスタン州、ジャールカンド州の3州に事業対象地を拡大し、パートナーNGO数も3つ増やして事業を更に進めていく方針です。

インド反人身売買リーダー連盟(ILFAT: Indian Leadership Forum Against Trafficking)は内部選挙を行い、会長を筆頭に全ての役職を自分たちのみで決め、39人のリーダーたちが3つの委員会を運営しています。登記の準備を粛々と進め、お互いを理解できる共通言語を欠く中でどのように共感と絆を強めるか、一部の声の強いリーダーだけではなく、どう全体として制度改革に声をあげていくか、思案の日々が続いています。

Support to



期間 | 2021年8月～2024年7月

事業費 | 143,458,822ルピー (2億3,527万円)

2022年度  
支出実績 | 8,637万円

日本事業

# 「つながり」を信じて進みだす

日本事業の活動開始から3年

# JAPAN

「なぜ、虐待を  
生き抜いてきた彼女が、  
その経験を謝りながら  
語るのだろうか」



YOKO TAGUCHI

田口 陽子

日本事業部マネジャー。総合社勤務の後、大学院を経て、開発コンサルティング会社・NGO等で国際協力に携わる。かものはしのミッションオリエンテッドに事業を進める姿に共感し、2017年11月に参画。

## 「児童虐待に 取り組むということ

私はかものはしプロジェクトの日本事業部で、チームの皆と一緒に事業の立案と推進を行っています。児童虐待に取り組もうと決めた後、私たちはこの問題について知ることから始めるため、ある20代の被虐待経験者の女性に話を聞かせてもらうことになりました。

4年前のその日、私は当事者を前に緊張と戸惑いを感じていました。どんな顔で、どんな反応をしたら良いのだろうか。話を聞き始めると、彼女は繰り返し「重い話ですみません」とどこもない笑顔を作りながら壮絶な経験を振り返り、人生を語ってくれました。

何かがおかしい。違和感を感じました。その正体を探っていくと、「なぜ、虐待を生き抜いてきた彼女が、その経験を謝りながら語るのだろうか」という疑問が浮かびました。謝るべきはむしろ、虐待を引き起こし、それを傍観していた社会なのではないか。そして私自身がその社会の一部だ。自分が恥ずかしくなり、この問題に取り組むことに不安を覚えました。

児童虐待の相談対応件数は年々増え続け、2020年以降は年間20万件を超えています。虐待は身体的、心理的なダメージを子どもに与え、その影響から将来にもわたって対人関係に難しさが生じたり、日常生活に支障が出たりすることも少なくないと言います。児童虐待は、20万件の先にいる一人一人の子どもの人生を大きく変えうる、人の「尊厳」に深く関わる問題です。

この深刻な問題に私たちはどう立ち向かえばよいのか。あの日彼女が、未熟な私たちに気を遣いながらも、大切な人生を語ってくれたことの意味は。そんな問いを抱き続けてきました。

## 「つながり」を信じて 進みだす

事業立案にあたり虐待の発生原因を調べると、一つの原因があるわけではなく、複数の要因が複合的かつ重層的に絡み合っていることがわかりました。虐待に至りやすいリスク要因として、若年妊娠や親の精神疾患、子どもの障害や育てにくさ、ひとり親家庭、経済的困窮などがあり、これらが互いに影響し合っています。しかし、リスク要因があれば虐待が発生するわけではありません。

結局のところ一体何が虐待を引き起こすのか、課題を構造化しようと繰り返し試みた結果、合理的に解釈できる問題ではない、という考えに至りました。

虐待事例から被害を受けた子どもの心情を想像すると、言葉になりません。同時に、虐待に至ってしまった親の背景を知っていくと胸をえぐられるような気分

になります。その人がこの社会の中で消え入りそうになりながら生きてきた痛みや悲しみが、感じられるからです。「自分は誰からも気づかれない存在」と透明人間になる感覚や、「私ばかり大変なのに誰も助けてくれない」と世界が敵に見える感覚が私にも時折あります。それらが激しく増幅したような、いたたまれない感覚を覚えるのです。

虐待は決して肯定されるものではありません。でも、その人が認められたり大切にされたりしなかったことの先にその行為があるのではないか、児童虐待は「人との関わりの中で大切にされ合うこと」つまり「つながり」の欠如によって起きてしまう、構造的な問題なのではないか、という仮説にたどり着きました。

こんなに深刻な問題に、そしてそれによって苦しんでいる一人一

人に固有の経験や背景がある中で、こんなにシンプルな仮説を提示することに、抵抗感も恐れもあります。ただ、何かを信じてみると、進みだせない気がしたので。私たちはこの4年間、当事者や現場で活動する人々から話を聞き、複数のプロジェクトを実施し、解を見つけようとチームでもがき続けてきました。そしてようやくたどり着いたこの仮説は、人が本来もっている優しさや温かさを根底で信じている私たちらしいものでした。だからこそ、信じてみよう。私たちは、昨年の秋に「社会の中に豊かなつながりを育むことにより、児童虐待が発生しにくく、虐待を受けた人が回復しやすくなる社会を目指す」ことを事業方針としました。

そして、たくさんの支援者からこの問題をなんとかしたいという思いを預かっている私たちが、多くの先人たちが努力を重ね続けているこの領域で果たすべき役割は、既にある多くの力を10倍にも100倍にもしていくことだと考えました。まずは地域での事業を進め、中長期的には他地域にその学びを普及していくことや、政策に反映させ全国に波及させることを目指します。

(事業の詳細は18ページ以降)



## 小さなつながりの先に 私たちのなりたい社会がある

児童虐待に取り組むということは、自分たち自身の嫌な部分に向き合い、それによって傷ついた人たちの痛みを知り、どんな社会になっていきたいかを願い、歩んでいこうとすることなのかもしれません。私はこの4年間で、「児童虐待の問題を解決せねば」というどこか傲慢な意気込みから、「足はすぐむけれど、一步一步前に進めよう」という等身大の覚悟に、ゆっくりと変化してきた気がします。

「虐待を引き起こし、それを傍観している社会」ではなく「豊かなつながりの中で、誰もが大切にされあう社会」に、私たちはきっとなれる。「なんとかしたい」のは、誰かではなく「私たちの社会」。そして、それをなんとかできるのも私たち一人一人なのだと思えるようになってきました。

今月小学校に入学した息子のクラスに、バングラデシュ人の子がいます。ただでさえ多くの親子にとって大変な子どもの進学で、両親とも日本語が話せないのは不安かもしれないと思い、声をかけてみました。

これは、児童虐待には直接的には関係がありません。でも、私たち一人一人の小さな小さな行動が、小さなつながりを生みだし、やがて私たちのなりたい社会の姿に近づいていくのではないかと、思うのです。

Think about it with you.

あなたと一緒に

考えたい!

深刻な問題だからこそ、自分たちを追い詰めたり責めすぎたりせずに取り組むことが大事なのではないかなと思うのですが、皆さんはどう思いますか?一人一人が、その人らしいスタンスと関わりで取り組めたら嬉しいなって思っています。



## 1

官民の垣根を超えた地域連携・協働で、虐待を予防する

## コレクティブ・インパクト事業

期間 2020年4月～2023年3月 ※休眠預金等を含む総事業費:3億3,029万円(3年間/採択団体への助成金含む)

2022年度支出実績 1,116万円(人件費含む)

「子どもにやさしいまち」をつくる  
つながり・連携を育み

[1] 出産祝いプレゼントお渡し会の様子(千葉県松戸市) [2] 官民連携を促進する地域円卓会議(千葉県松戸市) [3] 出産祝いイベントの様子

2020年からの3年間、子ども・家族を地域みんなで支える「地域エコシステム(生態系)」を育むことを目指し、地域の連携・協働を促進するコーディネーター役を担う6団体への支援を行ってきました。MamaCan(松戸)、岡山NPOセンター(岡山)、Learning for All(関東2地区)、子育て運動えん(大阪)、小豆島子ども・若者支援機構(小豆島)、グッド・エイジング・エールズ(全国)に、資金支援やコンサルティング等を実施しました<sup>※1</sup>。

【※1】本事業では、休眠預金等活用法における指定活用団体である一般社団法人日本民間公益活動連携機構(JANPIA)により、資金分配団体に採択された特定非営利活動法人エティックとのパートナーシップのもと、休眠預金等を原資とする助成金を活用しました。

## 3年間の成果・地域の変化

行政や民間支援団体、企業、地縁組織、市民、そして当事者など、多様な組織や人々の連携を促進することで、子ども・家族への支援の質を高め、虐待や孤立をはじめとした子どもを巡る不条理を予防・軽減することを目指して、3年間取り組んできました。

その結果、支援を行ったすべての地域で、子どもを取り巻く課題に関する共通理解や意識の変化が進み、団体・組織の垣根を超えたネットワークが形成されました。

岡山では、岡山NPOセンターと山陽新聞社会事業団、山陽新聞社が中心となって、孤立する子どもたちに支援の手を伸ばすための「KOTOMO基金」が設立され、2023年2月までに集まった寄付金額を元に、約945万円が市民活動団体に配分され、1,041件の支援が行われました。

さらに、孤立・困窮する当事者とのつながりを育み続けたことで、子どもの虐待や孤立を予防・軽減する変化も生まれています。

特に松戸では、孤独な子育て中の親が気軽に相談できる仕組みや、困難な状況の家庭への伴走支援の体制がつけられました。年間で、地域とつながるきっかけづくりのための出産祝いプレゼントを221家庭に配布、気軽に子育ての相談をしたり不安な気持ちを吐き出したりできるLINE

相談を155人が利用、困りごとを抱えた家庭への伴走支援を26件実施し8割ほどが改善傾向、という成果が出ています。

また、事業開始前と終了時に各地域の状態を測るために、5つの評価軸(①地域のネットワークづくり、②関わる人・団体間での理念共有、③子どもを取り巻く状況の変化、④コーディネート機能の確立、⑤活動の継続を支える財源の確保)での5段階評価を実施しました。事前評価では6団体の総合評価は平均2.3点でしたが、3年間の活動を経た結果、3.3点まで上昇しました。

## かものはしの今後のチャレンジ

休眠預金等を活用した3年間を終えて、今後かものはしとしては、一つの地域にさらに集中して「連携・協働による虐待予防」の成果を創出するモデルづくりに取り組み、将来的な複数地域への展開を目指します。

具体的には、千葉県松戸市において、子どもの権利条約<sup>※2</sup>のスローガンでもある「子どもにやさしいまち」づくりに向けて、子どもや家族の尊厳を守るための政策提言や、支援者同士が重層的につながる仕組みづくりを通じた虐待や孤立の予防・早期対応に取り組んでいきます。

【※2】1989年11月20日、第44回国連総会において採択された、世界中すべての子どもたちがもつ権利を定めた条約です。

日本事業報告

# 2

妊産婦が地域の支援者とつながれる居場所をつくる

## 孤立しがちな妊産婦に寄り添う

児童虐待を予防するためには、その裏にある親の孤立に目を向け、深刻な状況になる前から身近に頼れる関係をつくることがとても大切です。特に、妊娠期や子どもが生まれて2歳くらいまでは心身ともに母親への負担が大きく周囲の助けを必要としますが、地域社会の関係性の希薄化など社会構造の変化もあり、不安や悩みを一人で抱える方が多くいます。

孤立する背景はさまざまで不安や悩みも人それぞれですが、共通して言えるのは、「状況が深刻になるほど自分から声をあげられない、もしくは困っていることに気づく余裕がなくなる」ということです。そのような状況を防ぐためには、本人が困っていても、困っていなくても早くつながり、長く寄り添う仕組みが必要です。私たちは、寄り添いを必要とする母親が妊娠期から自分のペースで地域の中で関係性を築ける居場所を提供し、居場所を介して地域で活動する支援者同士がつながり、支援が持続する仕組みをつくりたいと思っています。「居場所」と「つながる仕組み」、この2つを一緒につくることで地域の虐待リスクを減らせると考えています。

2022年度は、妊産婦とつながる場づくりを試行するため、千葉県松戸市内に暮らす妊婦が不安や疑問を語り合い、市内のサービスについて知る座談会を開催しました。また、孤立しがちな妊産婦のニーズを理解するため、松戸市において行政や民間の支援者の方々へのインタビューを実施したほか、居場所支援を行っている各地の団体を訪問し、意見交換をさせていただきました。2023年度は調査の結果に基づき、居場所立ち上げの企画を推進する予定です。



松戸市内で実施した妊婦向け座談会の様子

**期間**  
2020年4月～2023年3月

**2022年度支出実績**  
778万円(人件費含む)

「つながりたい」へ  
「つながれない」から

日本事業報告

# 3

児童養護施設を出た若者が安心して生活できるように

## 児童養護施設などを退所した若者の巣立ちの応援事業

児童養護施設などを退所する子ども・若者は毎年約2,000人で、その多くが高校卒業後の18歳での退所です。退所後の若者たちを取り巻く状況は厳しく、大学進学率は一般家庭の半分以下、さらに中退率も高く、進学できても途中で学ぶことを諦めざるを得ない状況の人もいます。高校卒業後、就職した人は3年で2人に1人が離職しており、その後不安定就労に移行している状況です。このように児童養護施設を出た若者たちは生活困窮に陥りやすい状況にあり、生活保護受給率は同世代に比べて約18倍<sup>※1</sup>の高さとも言われています。

この状況を変え、児童養護施設などを出た若者たちが安心して生活できるよう、児童養護施設の退所後支援と、退所後の子ども・若者を支えるアフターケア<sup>※2</sup>団体による支援のさらなる充実に向け、「現場支援」と「政策提言」を行っています。現場支援では、千葉県にある児童養護施設にて退所後の自立支援を担う職員の方へ、専門家派遣によるコンサルテーションを行い、日々の卒園生支援の相談や、自立支援のガイドライン作りを支援しています。

さらに自立支援を担う職員が他機関と連携できるよう支援したり、研修実施による制度理解促進などを行っています。政策提言では、これまで、メンタルケアの拡充を求める署名プロジェクトに運営メンバーとして参加し、活動を進める中で制度改善が行われました。昨年度は、アフターケアを行う業界団体の皆さまとともに、省庁に対する働きかけを行いました。今後も現場支援と政策提言の両輪で、日本のアフターケアを充実させていきます。

【※1】永野 咲、有村 大士「社会的養護措置解除後の生活実態とデプリベーション：二次分析による仮説生成と一次データからの示唆」2013 【※2】アフターケア：児童養護施設などを退所した子ども・若者への支援

現場支援と政策提言で  
日本のアフターケアを充実させていく



巣立ちの応援をしている千葉県の児童養護施設

**期間**  
2022年4月～2023年3月

**2022年度支出実績**  
981万円(人件費含む)

カンボジア事業

# かものはしから独立して5年

SALASUSUは新たな旅路へ

## CAMBODIA



笑い声が響く工房の休み時間。  
穏やかな時間が流れます。



菅原 裕恵

SALASUSU 理事、ブランドディレクター、経営企画担当ディレクター。美術大学卒業後、ファッション産業に従事、よりよいものづくりの形を求めて2016年3月かものはしプロジェクトカンボジア駐在員として参画。

2016年、プロダクトデザイナーとして初めてカンボジアの工房を訪れたときの驚きを今でも覚えています。うだるような暑さの3月のカンボジア、赤土の上に立つ木造建物の中は存外涼しく、そしてミシンの音と女性たちの明るい笑い声に満ちていました。人身売買の予防を目的に2008年にかものはしプロジェクトによって設立されたこの工房では、最貧困層家庭出身の女性たちによってSALASUSUブランドのバッグやサンダルが作られています。2018年、カンボジアでは問題が解決されたことを受け、当時問題が深刻であったインドに力点を移し、当時のカンボジア事業部はSALASUSUとして独立しました。かものはしから独立して5年、カンボジアのその後をお伝えします。

ENJOY YOUR LIFE JOURNEY

### 「人生の旅を楽しんで生きる」ということ

独立以来、工房では雇用だけでなくライフスキルと名付けた「生きていくための力」を身につけるための教育プログラムを提供してきました。近隣に住む最貧困層出身の女性たちが工房で働きながら学んだ後、卒業するというものです。

SALASUSUのビジョンは「Enjoy Your Life Journey - 人生の旅を楽しんで生きる」。この柔らかなフレーズには、私たちの強い想いが込められています。人の生き方は実に多様で、自由で、絶

対的な正解や不正解はありません。人生を地図のない旅だとすると、どこかに到達するその結果よりも、そこまでの旅路を豊かにすることこそがよく生きるということではないでしょうか。そして行き先を決める舵を握るのは自分自身であり、その舵は奪ったり奪われることがあってはなりません。

しかし自分の人生の舵を握り続けることがどれだけ難しいことか、この15年間で痛感しています。工房ではいつも元気な女性たちが、問題に出会うととても脆



Our Story - "Want to do something about it"

弱だと感じることがあります。自分の意思はさておき、家族や周囲の要望に従ってさまざまなことを諦めていく姿にもどかしさを感じてきました。

過去に、工房の教育成果を、女性たちが卒業後に良い仕事で給料を稼げたかの軸で測ろうとした時期がありました。しかし、卒業後の就職を維持することだけが人生の豊かさでしょうか？格差の社会を変えようとしながら、社会から与えられた物差しで他人の人生を測る。この格差社会の枠にはまりこんでいたのは紛れもなく私たちでした。

社会に経済的に貢献できる「産業人材」よりも、豊かな「生きていくための力」を持ち、自分の人生の舵を握れる「主人公」が育つ社会を作りたい。ビジョンにはそんな想いが込められています。

## “変わるもの、変わらないもの”

2022年、SALASUSUは「誰もが自分だけの人生の旅を楽しんで生きる」ことを実現するため、カンボジアの公教育領域に挑戦することを決断。工房で育んだ教育をカンボジア全土に届けるた



め、工房は「職場兼学校」の形から、100%学びの場となる「学校」として生まれ変わります。

教育事業に集中するため長い時間をかけて話し合った結果、2008年から続けてきたものづくり事業は一部の生産をカリキュラムとして残し、日本で展開してきたブランドは2023年の夏をもって終了と大幅な縮小を決定しました。

私にとって、この事業転換の決断には大きな勇気と時間が必要でした。工房の教育に変化が起きたとき、これからSALASUSUの教育はどんどん良くなっていくという予感とともに、「ものづくりを縮小し、ブランド事業を終了する」というアイデアが頭をよぎり、ドキリとしました。

ブランドは私がSALASUSUに参画したきっかけであり、関わり続けている理由そのもの。柔らかく生き生きとした工房の空気感

に驚いた6年前のあの日から、ものづくりを通じて作り手たちと関係を育んできた大切な居場所です。しかし、ブランドの存続にこだわり続ける意味はなんだろうか？この事業で作りたかったものは一体何だろうか？と自問自答を繰り返す中で、たどり着いた答えは「たとえブランドが無くても、作りたいものは変わらない」ということです。

これまでも良い商品開発を目指す中で一番大切にしていたのは、ものづくりのプロセスを経て彼女たちの自信や誇り、生きていくための力が養われる事でした。商品開発は難しすぎる、と文句をいながらも誇らしげにサンプル作りを担当していることを話す作り手の顔。それが私の誇りでもありました。ブランドの終了で、デザイナーとしての関わり方は変わるでしょう。でも、作りたいものはこの先も変わらず「生きていくための力」、それを身につけられる場所です。

## 「尊厳」というキーワードでつながるかものはしとSALASUSU

これまで日本で公教育改革に携わる専門家とともに教育プログラムの改善に取り組んできました。今ではより密度高く、「生きていくための力」をより豊かに育む体制が整いつつあります。私たちがこれまでに大切に培ってきた一人一人の尊厳が大切にされ、誰もがここにいいのだと思える場の力と、質の良い教育を掛け

合わせていく事で、誰もが学べ、誰も取り残されることのない、より良い学びの場を作り上げる事ができると確信しています。

そして公教育領域に挑戦することで、毎年カンボジアで公教育を受ける300万人以上の人たちにより良い学びを届ける事ができる。それがいつか、今工房で働く

女性たちの子どもたちにも届く。そんな夢を描いています。

独立から5年、それぞれの道を深めてきたかものはしとSALASUSUは「尊厳」というキーワードで再び繋がろうとしています。正式開校は2025年の予定です。SALASUSUの新たな挑戦を応援よろしくお願いします。

SALASUSUサポーターになって学校づくりを応援しませんか？

SALASUSUの活動を月々1,000円から継続的に応援していただく仕組みがあります。SALASUSUサポーターになって「誰もが自分だけの人生の旅を楽しんで生きる」ための学校づくりを応援しませんか？

サポーターのお申し込みは

salasusu サポーター 検索

<https://salasusu.com/join/supporter/>



ONLINE STORE

この年次報告書をご覧の方のみ7/31まで送料無料!

クーポンコード「kamoar2023」をご記入ください!



Think about it with you.

あなたと一緒に

考えたい!

あなた自身にとって「人生の旅を楽しんで生きる」とはどんなことでしょうか。あなたがそうするために必要なことはなんですか？あなたの家族や、友人や大切な人が「人生の旅を楽しんで生きる」ために、あなたがしてあげられることはなんだと思いますか？



「子どもが売られない世界をつくる」に代わる  
あたらしいキャッチフレーズ

NEW TAGLINE

# 子どもの虐待や貧困 「なんとかしたい」を 大きな力に変えていく

子どもへの暴力や、子どもの貧困。現状を変えられず、孤独の中にいる親たち。私たちは、事件がニュースになるたび、どうにかしたいと強く思う。けれど、どうアクションしていいかわからない。一方では、虐待などの社会問題に立ち向かっているけれど、リソースも足りず、社会からの心ない批判を浴びて、疲弊している現場の方々もいます。まだまだ、今は、思いが「点」として存在していて、問題解決や癒しのための「大きな力」になりえていないのかもしれませんが。人にいちばん近いところで、自分たち自身のこととして、ちょっとずつ力を出し合い、寄り添い、希望をつなぐ。それは、政治や、企業の経済活動だけではカバーできない、「市民一人ひとり」から生まれる、大いなる力です。この、一人ひとりの思いを束ねて生まれた大きな力を、必要とする場所へと届けつづけることで、社会は必ず変わります。子どもも、大人も、生まれながらに持つ「尊厳」を大切に、大切にされている社会をかなえられるはず。そのために、かものはしプロジェクトのこれからがあります。**一緒に、大きな力になってください。**



# LOOKING BACK ON THE LAST 20 YEARS OF KAMONOHASHI



## かものはし 20年の歴史を振り返って

2002年 かものはしの始まり

The Beginning of the Kamonohashi Project

### 無知ゆえの好奇心がそこにあった

かものはしプロジェクトは21年目に入った。2022年には、かものはしの理念の中心に「尊厳」をすえる意思決定をした。そして、組織を変化させていくために僕が理事長という役割を担わせてもらうことも決めた。このタイミングで、かものはしの始まり、インドへの展開、カンボジアからの撤退とSALASUSUの独立という3つの大きな局面について振り返り、学びを言葉にした。あわせて理事長としての指針について皆さまに共有したい。

たちの状況についてなんとかしたいと思っていた。そして、僕ともうひとりの創業メンバーの本木は、なんとかできるかもと思って、その可能性にわくわくしていて、かものはしは始まった。僕が村田から児童買春の話聞いたのが19歳。深夜まで話し込んだ。3ヶ月だけやってみようと思った。3ヶ月だけ調査して、自分たちにできそうなことがあるか考えてみようとした。そして、ITで児童買春問題を解決するというコンセプトの事業を立案し、もう少しやってみようと思った。自分が担当したのはITビジネスの立ち上げ。3人の中ではパソコンがわかるほうだっ



かものはしプロジェクト 共同創業者・理事長

### 青木 健太

KENTA AOKI

東京大学2年生の時に共同創業者の村田と本木と出会い、2002年にかものはしプロジェクトを設立。カンボジア事業独立に伴い、2018年4月からはNPO法人SALASUSU共同代表として現地で活動を続けている。

2002年にかものはしプロジェクトがスタートした。村田は子ども

2002



どうにかしたいと事業プランを考え様々な人に助けを求めた

2003



2002年10月 初めてのカンボジア渡航。タイから国境を陸路で越えた。車の荷台にて自撮り

2005



カンボジア：パソコン教室をひらく。孤児院の子どもたちを受け入れた

2008



カンボジア：村長さんの家の部屋を借りて事業スタート。村の女性たちに初めての給与を手渡し

2012年 インドでの事業開始

Starting up operations in India

## 「同情」から 「共感」へ

たというそれだけだった。最初の仕事は、プロジェクトを開始してから6ヶ月後、当時、若者の間では死活問題だった、携帯電話のメッセージの「絵文字」に関連する仕事。売上は数万円だった。

当時を振り返ると僕は社会の複雑さも事業をする難しさもわかっていなかった。無知だった。社会に挑むことへの好奇心しかなかった。だからこそ勢いよく始めることができたのかもしれないと思う。もしあのとき社会も人間もこんなにも複雑であることを知っていたら、その重圧と難しさに耐えられず始めていなかった

かもしれない。でも、一歩ずつ進んできたからこそ、今は15,000人のサポーターに支えられ、10数のパートナー組織とともに活動している。この20年間は、様々な人にたくさん迷惑をかけたし、たくさん支えてもらい、たくさん学んできた。そんな旅路だったと思う。

2012年からかものはしはインドでの活動を開始した。インドの人々との出会いはとても大きかった。インド事業を力強くリードしてくれているループとウマ、清水や本木や他のメンバーと対話したことを深く覚えている。

ループとウマのオフィスの小さな部屋で床に座り何度もいれなおしてもらったチャイを飲みながら問われたことは、その後の僕らのあり方に大きな影響を与えた。「外国人である君たちがなぜインドの人身売買の問題を解決しようと思うんだ？同情か？それとも共感か？」鋭い知性、深い思想が彼ら

にはあって圧倒された。と同時に優しく包み込まれるような対話だった。

正直なところ、これまでの自分たちは同情的なあり方だったと深く考えさせられた。カンボジアやインドにかわいそうな被害者がいて、自分たちはヒーローのように助けに行く。そこにある問題は自分とは関係のない他者の問題として、外からパズルを解くように「問題解決」する。そんなあり方をしていたように感じた。そんなあり方がループとウマには伝わっていて、「同情か共感か」と聴かれたのかもしれない。

その後、ループやウマにいざなわれて、助ける対象であった人身売買の被害者でありサバイバーであるリーダーたちと対話をし行動をともにする中で、彼らの痛みを自分のものとして感じ、また自分自身がその問題の一部だと気づいた。そのとき、自分に娘がうまれており、娘がそうした被害にあったらと思うと、本当に自分ごととしてぞっとした。もちろん自分自身には人身売買の直接的な経験はない。しかし誰かに裏切られ、暴力をふるわれ、自分の意思を失わざるを得ないときの痛み。そこに同情ではなく自分ごととして共感できたと感じたときに、問題や事業に関わる視点

が大きく変わった。誰もが社会の当事者であり、自分もまたこの問題の当事者であることに気づくことができたのはとても大きいことだった。

「同情」的な自分たちのあり方や行動は、現地の社会が有する力を無視し、そして当事者の尊厳を損なうようなものであったと今は思う。今のインド事業は、サバイバー、NGOの人々など一人一人の声を互いに聴きあい、自分もインドの人たちも当事者として共に事業と社会を創っている。僕はそのことを誇りに思っているし、このような事業と組織のあり方を目指している。

2009



カンボジア：村に分け入り、ファクトリーを設立

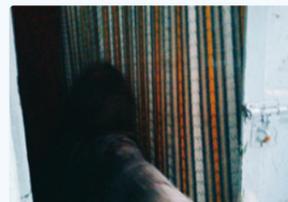
2011



カンボジア：子どもを買わせないために警察支援を開始



カンボジア：暑いカンボジアの村のファクトリーでものづくりを通じた人づくりに挑む



インド：世界中を調査しインドでの展開を決定。写真は潜入したインドの売春宿の入り口

2013



インド：NGOリーダーたちと議論と対話。ものすごく濃く深い学びがあった

2015



インド：サバイバーやインドのNGOリーダーたちの話に耳を傾けた



カンボジア：女性たちのつくった商品が並ぶ直営店



サポーターのみなさんがカンボジアとインドでの活動を支えてくれた

2018年 カンボジアからの撤退と独立

Withdrawal from Cambodia and independence of SALASUSU

## 自分を大事にして 世界を癒やしていくこと

2018年にかものはしはカンボジアから撤退した。一方、僕自身は事業を引き継いでSALASUSUという団体を立ち上げ独立することを決意した。それを決めたとき、実は理由はうまく言葉にできていなかった。自分がやりたいことが自分の心の中に存在するけれど、まだはっきりしていなかった。それは、かものはしのミッションには相容れないとも感じていた。

かものはしは「子どもが売られない世界をつくる」というミッションを重視していた。そこからはみ出るような事業は優先順位を大きく下げざるをえなかった。ミッシ

ョンに対して合理的であり、ある意味で冷徹な判断は、僕たち個人をミッション達成の道具のように扱おうとしてくる。「人身売買の撲滅」という強力で誰も疑う必要がない大きな物語が、個人の物語よりも無条件に優先される。カンボジアの人々と共に過ごす中で社会の変化によって、その大きな物語からはみでてしまった僕個人にはとても冷たい物語のように感じた。

一方で、「個人」としてのかものはしの仲間は自分の決定を支えてくれた。僕が何を感じていて独立しようと考えているのか、僕の家族や幼少期にさかのぼったルーツ

を丁寧に聴いてくれた。聴かれる中で、自分が癒やされていく感覚があった。自分のやりたいこと、ありたい姿が明瞭になっていった。共感される体験のパワフルさ。僕一人では到底のぞきたくもない自分のダークゾーンに、みんなで手を繋いでゆっくり降りて行くことができた感覚。「ああ、これが僕が一人の人として、当事者として尊厳を大事にしてもらえた瞬間だったのだ」と今だとよくわかる。

そして、自分のやりたいことは、「人が生き生きと自分の人生を楽しむようになるように応援すること」だと気づいた。コロナ禍にお

2022年 これから

The Future

## 尊厳を 中心に

いて相当にきつい時期があったけれど、今回の報告書でもご報告したように、事業と組織が成長していることを実感している。SALASUSUはカンボジアのすべての学校で、誰もが聴き合って、学び合って、支え合って、そして自分の人生を楽しむことができる教室を創っていくことを決意した。ここまでたどり着き、また歩んでいこうと思っている。それは、自分自身が聴かれ、共感してもらい、癒やされたこと、それにより自分の心が柔らかくなり、あらゆる可能性に対して開くことができたことが大きかったと感じている。

そんな僕がまたかものはしの理事長を任されることになった。それはこの20年の学びを次の世代に繋げていく役目をもらったのだと思う。

自分を癒すこと。それが、組織を癒やし組織の活力を生み出す。そして、その組織が社会を癒やし、社会の活力を生み出す。これが社会変革において最も大事なことであり、かつ社会変革に至る最良の道だと僕はこの20年間で学んだ。これから社会変革に挑み続けるにあたって、まず私たち自身の尊厳を大事にし、人生の旅を楽しむような組織へと育みたい。尊厳

が大切にされ、大切にすることで、一人一人が自分の人生の主人公になっていく。そして、その人生の物語を互いに聴きあえる組織であり社会。そこに向けて理事長として挑戦し、また次のリーダーにバトンを渡していきたいと考えている。

2017



カンボジア：撤退と独立の前年にみんなで



インド：かものはしインドパートナーNGOとかものはし役職員のワークショップ



インド：サバイバー、弁護士、NGO関係者等数十名でのTaftteesh戦略会議



インド：若いサバイバーたちが立ち上げ積極的なコミュニティ活動を展開するBandhan Mukti

2019



日本：児童虐待に関する事業をスタート



かものはしの理念の中心に「尊厳」をすえる

2022



インド：コロナ禍初のインド出張でILFATを支える戦略同盟グループと2日間のワークショップを実施



カンボジア：コロナ禍の中でSALASUSU(元カンボジア事業部)も進化し、カンボジア公教育の領域に挑み始める



3月に開催された東京マラソン2023では、たくさんの方に参加していただきました  
(かものはしプロジェクトは、東京マラソン財団チャリティ「RUN with HEART」の寄付先団体です)

## 皆さまの変わらぬご支援のおかげで 活動が続けられています

2022年度は資金調達額が4億2千万円となりました。2002年の創業から20年経った2022年も成長を続け活動ができてるのは、皆さまの変わらぬご支援と活動のおかげです。改めて感謝をお伝えしたいと思います。いつも本当にありがとうございます。サポーター会員の方々は、14,999人(2023年3月末時点)と2022年度も多くの方にご支援いただきました。2022年度は会員システムの変更に伴い、会員の皆さまに情報の再登録のお願いを幾度も差し上げましたが、ご対応いただき誠にありがとうございました。



2022年総会はオンラインで開催。「尊厳」について、参加者の方々とお話できた良い機会でした。

## 1 ミッション変更後 様々な取り組みや 検討を続けています

2022年6月にミッションを、「だれもが、尊厳を大切に、大切にされている世界を育む」に変更し、「子どもの虐待や貧困『なんとかしたい』」を大きな力に変えていく」というキャッチフレーズを制定しました\*。ミッション変更後、サポーター会員の皆さまと、「尊厳」についての対話の場を持ちました。また、ミッションの変更に伴いロゴも刷新し、今まで以上にミッションを分かりやすく表現できるものになりました。

\*詳細は26、27ページに記載していますので合わせてご覧ください

## 2 さまざまな方法で ご寄付いただけることに 挑戦しています

活動を重ねるにつれ、さまざまな思いの込められたご寄付をいただく機会が増えています。特に遺言によってご遺産をご寄付いただく「遺贈寄付」についての関心をいただく機会が多く、2022年度から本格的に取り組み始めました。我々も発展途上ですが、ご興味をお持ちの方はお気軽にお問い合わせいただければと思います。また2022年11~12月の冬季キャンペーンでは約630人の方から812万円のご支援をいただき、ご寄付はインドと日本での活動に大切に使用させていただきました。ご支援いただき、誠にありがとうございました。

## 3 組織の持続可能性を 高める取り組みを 続けています

「だれもが、尊厳を大切に、大切にされている世界を育む」というミッションをご支援いただいている皆さまと実現させるためには、組織が長期的に健全に機能することが重要だと考え、組織の持続可能性を高める取り組みを以前から続けています。また、20周年を迎える2022年度に理事長が青木健太に、事務局長が小島瑞代に変更となりました。

2022年度は、職員が継続して安心してミッションに取り組めることを掲げ、給与改定や組織体系の変更を行いました。ミッションを自ら体現できる組織を目指し、2023年度も評価制度や成長支援の改革に取り組む計画です。

2023年度は、マスクの規制解除等社会情勢の変化により、この3年はオンラインのみでお会いしていた皆さまとも直接対面でお会いできる機会を作ることが可能になりました。感染状況に配慮しつつ、今までお会いできなかった無念さを取り戻すべく、色々な対面の企画を検討していますので、ご期待ください。

ミッションを変更して1年!



年次報告書編集チームからの

# お知らせ

新ミッションに合わせて

## ロゴやWEBサイトを変更していきます。

かものはしプロジェクトは「子どもが売られない世界をつくる」を掲げて、カンボジアやインド、日本と活動してきましたが、20年目の2022年に「だれもが、尊厳を大切に、大切にされている世界を育む」にミッションを変更しました。

事業や組織も変容を続けている最中ですが、2023年度はロゴとキャッチフレーズを刷新し、より新しいミッションを標榜できることを目指します。デザインや言葉で体現することで、より多くの方に伝え、ともに歩んでいけるよう進めます。WEBサイトやパンフレットなども順次変更していく予定です。どうぞ、楽しみに。

NEW LOGO /



## かものはしプロジェクト

OLD LOGO /



認定NPO法人  
かものはしプロジェクト



## アンケートにご協力をお願いいたします!

15,000人のサポーター会員の皆さまは、ともに「かものはし」をつくっていく仲間だと考えております。たくさんのご意見・ご感想をいただくと嬉しいです。



アンケートはこちら



皆さまの「声」を聞きたいかも!

編集後記

## 今年の年次報告書はいかがでしたか?



編集長  
本木 恵介  
共同創業者

「私たちはプロである。そして皆さまから託していただいた大切な想いとお金を活かして、事業を実施したことについて説明責任を果たす。」という意識とともに、「現場にて迷いながら進んでいく一人の人間である。活動において私たちが感じたこと、学んだことを共有することが、皆さまとともに社会を育てていくことにつながるのではないか」ということを考えて今回報告書を制作しました。



副編集長  
樋山 真希子

年次報告書の作成に携わり6年目に入りました。毎年、「かものはしを応援していてよかった」と思っていたように全力で作成しています。ライティング前に事業担当者と1年を振り返る時間がとても好きです。担当者の熱量を落とさず、皆さまにわかりやすく伝えることをいつも心がけています。今回の報告書がどのように皆さまの心に響いたか、ぜひお声を聞かせてください。



スタッフ  
鳥居 真樹

かものはしの等身大な「声」をお届けすることを大切に作りました。日々の活動の中で、悩み迷い葛藤しながらも前に進んでいけるのは、「ともに歩もう」と応援してくれる15,000人のサポーター会員の皆さまの存在があってこそ。この報告書をきっかけに、今度は皆さまからの「声」を聴く機会をつくってこうと企画しています。お会いできる日を楽しみにしています!



デザイナー  
生駒 浩平  
sai company

年次報告書のお手伝いをさせていただいて13年目です。一人でも多くの方に活動を理解してもらうことが、かものはしが取り組む課題の解決につながると信じて、毎年、かものはしの編集チームと試行錯誤しながら作っています。今年度はデザインも大きく変えましたが、それもまた多くの人に届くようにするため。多くの人に届いて「大きな力」に変わっていくことを願っています。

## ご支援いただいた企業・団体の皆さま

### ご寄付をいただいた皆さま

アサガミ株式会社

ABeam Consulting®

MFS®

OAK FOUNDATION

アビームコンサルティング株式会社

MFSインベストメント・マネジメント株式会社



こどもプラス株式会社・  
こどもプラスホールディングス株式会社

新日本管財株式会社  
互助会

TAGAYA  
BRIDAL

株式会社タガヤ

帝國製薬

帝國製薬株式会社

堂本

堂本製薬株式会社



株式会社東横イン

トラストファーマシー

株式会社トラストファーマシー

医療法人なごみなごみ診療所

一般社団法人  
日本漢方薬膳協会

環境と平和のNPO  
ネットワーク  
『地球村』

People Focus Consulting

株式会社ビーブルフォーカス・  
コンサルティング



Miner Foundation

一般財団法人  
ミダス財団

NOISE KING

有限会社 Relax (NOISEKING)

アースリードアテイン株式会社 / 株式会社アサヒインプレス / アジアグループ / アステリア株式会社 / アネス株式会社 / 株式会社奄美群島環境文化総合研究所 / FSX株式会社 / MS&ADゆにぞんスマイルクラブ / 有限会社エルジーエヌセミナーズ / 株式会社エルフ商事 / 株式会社エルローズ / 株式会社環境計画研究所 / 株式会社久保設備 / クレハサービス / 医療法人社団くろべクリニック 産婦人科 / 税理士法人古田士会計 / 株式会社木風 / 株式会社ジョイメイト / 住友生命保険相互会社 / 株式会社SEIKO / 有限会社THS / 株式会社タカゾノ / データビズ合同会社 / 東京ビジネスサービス株式会社 / 株式会社とりすえ / 株式会社永屋 / 日鉄エンジニアリング株式会社 / ハーチ株式会社 / ハウジングスカイ株式会社 / 株式会社一 / 株式会社古木企画 / プレミアリーグトークショー / 株式会社プロミッション / ペイトータルサービスジャパン株式会社 / 株式会社マーケティングフルサポート / 魔法のタイツ株式会社 / 株式会社三浦建装 / 三井化学株式会社 / 三井化学ちびっとワンコイン / 株式会社三好商会 / 森屋建設株式会社 / 横濱ロータリークラブ / Learnship株式会社 / 株式会社 Life Create Support / 株式会社ラファイエット / 竜友商事株式会社

※五十音順・敬称略 ※10万円以上のご寄付をいただいている法人、団体の皆さまを掲載しています。

### 技術協力をいただいた皆さま

アドビ株式会社 / アビームコンサルティング株式会社 / 油屋マネジメントコンサルティング / &PUBLIC株式会社 / HTBエナジー株式会社 / 江戸川双輪舎 / MCリテールエナジー株式会社 / 株式会社コムニス / sai company / 株式会社ザ・リード / システムアウェアネスコンサルティング / 株式会社セールスフォース・ジャパン / ソフトバンク株式会社 / 株式会社デファクトスタンダード / 一般社団法人ハーティン / ハチドリ電力 / 株式会社バリュースボックス / ブルーマーブルジャパン / ヤフー株式会社

## 2022年度 財務会計報告

### 活動計算書

(単位:円)

科目	19期(2022年4月1日～2023年3月31日)			20期(2023年4月1日～2024年3月31日)	
	当初計画	実績	計画達成率	計画	前年比増加(%)
<b>経常収益</b>					
受取会費 正会員・賛助会員受取会費	325,573,416	328,003,100	101%	329,295,294	0%
受取寄付金 受取寄付金	90,966,000	76,059,047	84%	86,031,211	13%
受取助成金等 助成金収入	12,733,315	19,223,546	151%	35,787,824	86%
受託事業収益 委託金収入			-		-
事業収益 啓発事業収入		422,054	-		-100%
その他収益 雑収入等	1,320,000	3,108,700	236%	1,320,000	-58%
<b>経常収益 計</b>	<b>430,592,731</b>	<b>426,816,447</b>	<b>99%</b>	<b>452,434,329</b>	<b>6%</b>
<b>経常費用</b>					
事業費 インド事業	188,490,087	164,993,432	88%	195,001,983	18%
啓発事業	165,014,196	136,929,870	83%	194,692,659	42%
日本事業	58,148,922	36,480,442	63%	66,480,240	82%
<b>事業費 計</b>	<b>411,653,205</b>	<b>338,403,744</b>	<b>82%</b>	<b>456,174,882</b>	<b>35%</b>
管理費 事務局	69,386,891	65,253,827	94%	94,428,631	45%
<b>経常費用 計</b>	<b>481,040,096</b>	<b>403,657,571</b>	<b>84%</b>	<b>550,603,513</b>	<b>36%</b>
当期経常増減額	-50,447,365	23,158,876		-98,169,184	
当期正味財産増減額	-50,447,365	23,158,876		-98,169,184	
前期繰越正味財産額	295,082,947	295,082,947		318,241,823	
次期繰越正味財産額	244,635,582	318,241,823		220,072,639	

### 貸借対照表 (2023年3月31日現在)

(単位:円)

科目	金額		科目	金額	
	資産の部	負債の部		負債の部	正味財産の部
現金預金	223,826,505		未払金	44,063,709	
未収金	29,661,134		未払法人税	70,000	
前払金	44,000		前受金	110,000	
前払費用	311,740		1年以内返済長期借入金	5,340,000	
仮払金	0		預り金	2,981,961	
<b>流動資産 計</b>	<b>253,843,379</b>		<b>流動負債 計</b>	<b>52,565,670</b>	
長期未収入金	13,199,737		長期借入金	1,335,000	
差入保証金	1,092,000		<b>固定負債 計</b>	<b>1,335,000</b>	
固定資産 (投資その他の資産)	8,651,500		<b>負債の部 合計</b>	<b>53,900,670</b>	
ソフトウェア	8,651,500		正味財産の部		
Leadership Nextプログラム基金特定資産	95,355,877		前期繰越正味財産額	295,082,947	
<b>固定資産 計</b>	<b>118,299,114</b>		当期正味財産増減額	23,158,876	
<b>資産の部合計</b>	<b>372,142,493</b>		<b>正味財産の部 合計</b>	<b>318,241,823</b>	
			<b>負債及び正味財産の部合計</b>	<b>372,142,493</b>	

### 監事監査報告書

認定特定非営利活動法人かものはしプロジェクト 理事長 青木 健太 殿

私たち監事は、特定非営利活動促進法第18条の規定に基づき、2022年4月1日から2023年3月31日までの事業年度の理事の職務の執行を監査した。その結果、理事の職務の執行に関する不正な行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実認められないことを確認した。また、貸借対照表及び活動計算書(「実績」部分に限る)は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認める。

2023年5月22日  
認定特定非営利活動法人  
かものはしプロジェクト 監事

山本龍太郎 橋本純子

### 会計監査の実施について

当法人では2017年度(第14期)より会計監査人による外部監査を行っています。監査対象となった財務諸表及び監査報告書はホームページに掲載していますので、ご確認ください。今年度(第19期)の会計監査の結果に関して、財務諸表等がすべての重要な点において、財務諸表の注記に記載された会計の基準に準拠して作成されている旨の意見を頂戴しています。

## 2022年度 報告及び2023年度計画

### 実績推移及び計画

活動の規模を表す費用総額は2022年度に初めて4億円を超え、前年度比22%の増加となっています。費用の割合は、主力であるインド事業が41%を占めています。日本において問題の認知を高め協力して下さる方を増やす啓発事業が34%、事務局費(管理費)は16%となっています。児童虐待に関する日本での事業を拡大する方針ですが、試行錯誤しながら進めており、成長軌道にのるまで時間がかかっています。そのため、2022年度は計画5,800万円に対して実績が3,600万円と計画達成率が63%となっています。

これらの活動を支える収益総額は4.3億円となり、2021年度から横ばいとなっています。22年度の収益のうち、会費及び寄付が95%を占めています。社会全般としてクレジットカード決済に対するセキュリティ強化が進んでおり、2022年度はその影響を大きく受け、会員の皆様のクレジットカードの更新時に再登録が必要となるなど退会が一時増加しました。その結果、2022年度は会員の入会数と退会数がほぼ同じとなり、年度末の会員数は1万5千人弱となっています。

インドでの事業については、引き続き、海外財団からの資金調達に注力しています。スイスのOak財団からインドTaftesh事業へ2019年度から3カ年の契約をし、45万USドルの資金提供がされました。2022年度までに事業実施が完了しており、2023年度前半に評価・最終報告を行う予定です。2023年度はあらたにイギリスの財団との協働事業が開始される予定になっています。

2022年度期末時点にて現預金が2.2億円となっています。当面活動を安定して行うには十分な資金を有していると考えています。この資金を活用しながら、事業及び活動を支える収益面での拡大を目指す方針です。また、事業を支える事務局機能の強化を予定しています。

### その他情報(参考)

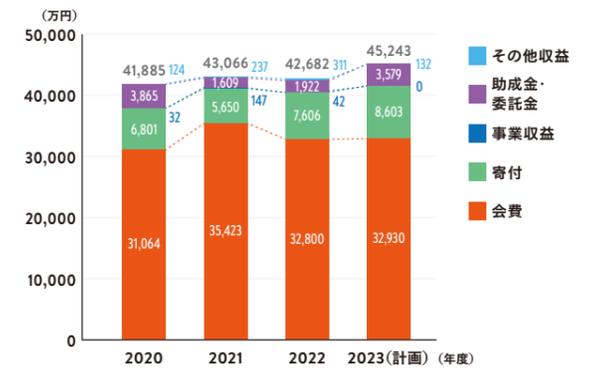
#### Leadership Next プログラム基金 特定資産について

Leadership Next事業に関して第二期として2021年8月より2024年7月までの3年間(総額143,458,822インドルピー)の実施を2021年7月に決定しています。本事業を他資産と明確に区分して管理することがより適切であると考え、残期間である2023年4月～2024年7月までの95,355,877円を特定資産として管理することを決定しました。

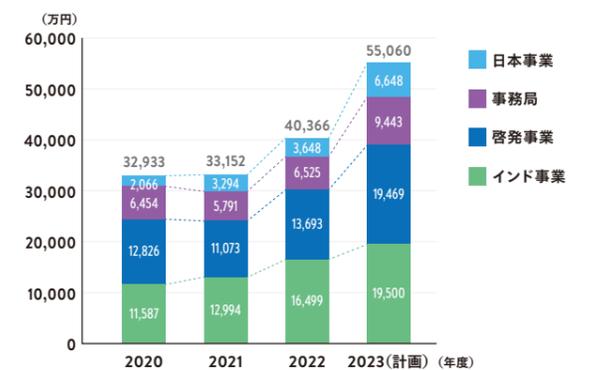
#### 役員及びその近親者との取引の内容

長期未収金(貸借対照表)に計上された13,199,737円の内、役員が近親者及び支配している法人等との取引に該当します。全額がSALASUSUへの事業譲渡に伴い発生したのになります。また、給料手当(活動計算書)に計上された79,888,483円の内、役員との取引は10,124,072円です。管理費の研修費(活動計算書)に計上された4,586,236円の内、役員・近親者及び支配法人等との取引は1,248,500円です。

#### 収益推移



#### 事業別推移



#### 追徴課税について

2018年3月まで当法人の一事業であったカンボジアのコミュニティ・ファクトリー事業(以下、「CF事業」)について、2021年8月にカンボジア税務当局から税務調査があり、また、2022年12月に2016年4月～2020年3月の期間の消費税・法人税、源泉徴収及び罰金、延滞金の合計、1,586,865,187リエル(52,175,341円)の納付が命じられました。

当該CF事業については、2018年3月31日、NPO法人SALA-SUSU(以下、「SALASUSU」)に事業譲渡しています。SALA-SUSUと共同で外部の専門家に依頼し、税務当局に対して当該追徴額を不服として抗弁・交渉を行っています。

※日本円は読者の便宜のために提供するものであり、2023年3月31日の為替相場(1リエル=0.033円、単位未満切捨て表示)で換算しています。

この年次報告書は、サポートしてくださっている  
印刷会社さまのご協力により、  
ご寄付の一環として無償で印刷していただきました。  
長年のご協力に感謝いたします。  
今年も変わらずご協力を賜り、  
皆さまに報告書を届けることができました。  
かものはしスタッフ一同、心から感謝いたします。



認定NPO法人

## かものはし プロジェクト

団体名	認定特定非営利活動法人かものはしプロジェクト
住所	〒150-0012 東京都渋谷区広尾5-23-5 長谷部第一ビル402
TEL	03-6277-2419
E-mail	info@kamonohashi-project.net
理事	青木 健太 / 伊藤 健 / 篠田 真貴子 樋口 哲朗 / 村田 早耶香 / 横山 十祉子
監事	橋本 純子 / 山本 龍太郎

かものはしプロジェクト

検索



<https://www.kamonohashi-project.net>

※かものはしプロジェクトは、被害者のプライバシーと意思を尊重し、  
被害者個人が特定される写真は使用いたしません。  
また写真を使用する際は本人の許可をいただいております。